

平成28年 舞鶴市議会意見交換会報告書

建設班

開催日時	平成28年7月13日（水）午後3時～午後5時		
開催場所	舞鶴工業高等専門学校大会議室		
テーマ	舞鶴・これからのまちづくりについて		
対象団体	舞鶴工業高等専門学校学生		
参加人数	18名	傍聴者数	26名
出席議員 (役割分担)	福村暉史（座長）	林 三弘（司会）	小谷繁雄（議会報告）
	肝付隆治（報告）	田村優樹（資料）	水嶋一明（記録）
内容	【概要】		
	議長及び舞鶴高専校長の挨拶のあと、出席者の自己紹介を行い、福村座長から意見交換会の趣旨・テーマ・進め方を説明。続いて小谷議員が議会報告及び舞鶴市が進める主要事業の説明を行い、その後これからのまちづくりに対する意見交換を行った。		
	【意見交換会の趣旨】		
	意見交換会は、議会の活動を市民の皆様にご覧いただくことや、意見交換を通じ市の抱える課題解決のために市民の皆様と情報を共有し、舞鶴のまちづくりに反映させることを目的としている。今回は高専学生の若い方々の意見を聴かせていただき、今後の市政に生かしていきたい。		
	【斉藤校長の冒頭挨拶】		
	まちづくりを志して舞鶴高専で建設工学を学ぶ学生にとって、市政の方針策定に深く関与している建設班の方々と意見交換できることは貴重な経験であり、また高専では自治課題の解決にも取り組んでいることから得難い機会であり、この交流の中から新しいアイデアが生まれればと思う。		
	【これからのまちづくりに関する意見交換】		
	高専学生からまちづくりに関する3つの具体的提案が示され、それぞれの提案ごとに意見交換を行った。		
	提案1 丸山小学校活用プロジェクト		
	舞鶴市三浜地区にある旧丸山小学校は、現存する唯一の木造校舎であり、これを活用し地域の活性化に役立てたい。しかし、校舎の老朽化は予想以上に進んでおり、校舎を安全に使用できるようにするためには多くの時間と経費がかかるため、校舎の風景全体を活用し、校舎の風景が日常となっていた頃の記憶を繋ぐ拠点にすることを目指し、「記憶から記憶を臨む」をコンセプトに、校舎に寄り添い活用を考えるきっかけとなる場所として校舎が見える小屋を作ることを考えた。小屋は10m ² 程度の最小限の大きさとし、記憶に触れ歴史を感じながら校舎を眺められるよう校舎の廃材を利用することとした。		
	議員からは、舞鶴全体としてどのように活用できるか、苦労したことは何かなどの質問があった。		

内 容	提案2 商店街のゲストハウス
	舞鶴への旅行者が増加している現状の中で、市内のホテル、旅館営業は減少しており、商店街の空き店舗増加問題と舞鶴市の観光振興寄与を合わせて解決する方法として、商店街の中にゲストハウスを建築することを提案する。今回提案するゲストハウスは、旅館業法が適用される宿泊施設で、一泊2000円～4000円でバックパッカーと呼ばれる外国人観光客や地域住民を対象とする。日本型体験をコンセプトとし、建物の構成は6m×20mの敷地に1階は大広間で交流スペース、2階は宿泊とトイレ・シャワーなどの公共スペース、3階は宿泊スペースとしている。
	議員からは、費用対効果、自炊の設備についてなどの質問があつた。
	提案3 道の駅舞鶴港とれとれセンター増築案
	今回の提案で中心となるのは自転車であり、その理由は、「車社会を前提とした道の駅は本当に道路利用者のためのものか」、「自転車の利用者が増加していること」、「ゆらりサイクリングロードがとれとれセンターの前を通っていること」、これらのことから自転車によって地域の魅力を発信し地域強靱化を促せるのではないかと考え、とれとれセンターの増築案を提案した。
	案内容は大野辺緑地に廻船問屋の屋並みを思わせるような屋根を掛け、バイスクールステーションとして新しい景観を生むような建築にすることによって地域の歴史を自転車で伝えるとともに、自転車の聖地として舞鶴を全国に発信できるようになるのではないかと思う。
	議員からは、レンタサイクルについて、駐車場の大きさについての質問があつた。
	【全体を通しての意見交換】
	学生から、舞鶴らしさをまちづくりの基本構想に示すこと、舞鶴に住むことに対する魅力の発信について、新幹線誘致のメリットについて、引揚記念館の学芸員について、交流人口増加のための施策について、由良川の防災整備について、Wi-Fiの整備について、公共交通についての質問・要望があつた。
	【意見交換のまとめ】
	今回の提案及び意見交換の中で発表されたまちづくりに関する若い人たちの着眼と発想は非常に新鮮で新しいまちづくりの参考となるものであり、今後の舞鶴のまちづくりと議会活動に活かして行きたい。

舞鶴市議会議長 桐 野 正 明 様

平成28年8月4日

舞鶴市議会意見交換会実施要領第9項(1)により、報告書を提出します。

建設班座長 福 村 暉 史